

平成25年度

「教育委員会の点検・評価」報告書
(平成24年度事務事業対象)

平成25年8月
那須町教育委員会

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」（H20.4.1）の施行を受け、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行ない、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することといたしました。

町教育委員会では、第6次那須町振興計画「ハートフル那須プラン」を策定し、このビジョンをもとに様々な施策を展開しております。

本報告書は、「ハートフル那須プラン」に基づき、平成24年度の主要事業や新規事業、教育委員会の開催状況等について、点検・評価を行い、その結果を総括的にまとめたものです。また、その間、教育委員会の点検・評価委員会を開催し、学識を有する方々からご意見をいただきました。

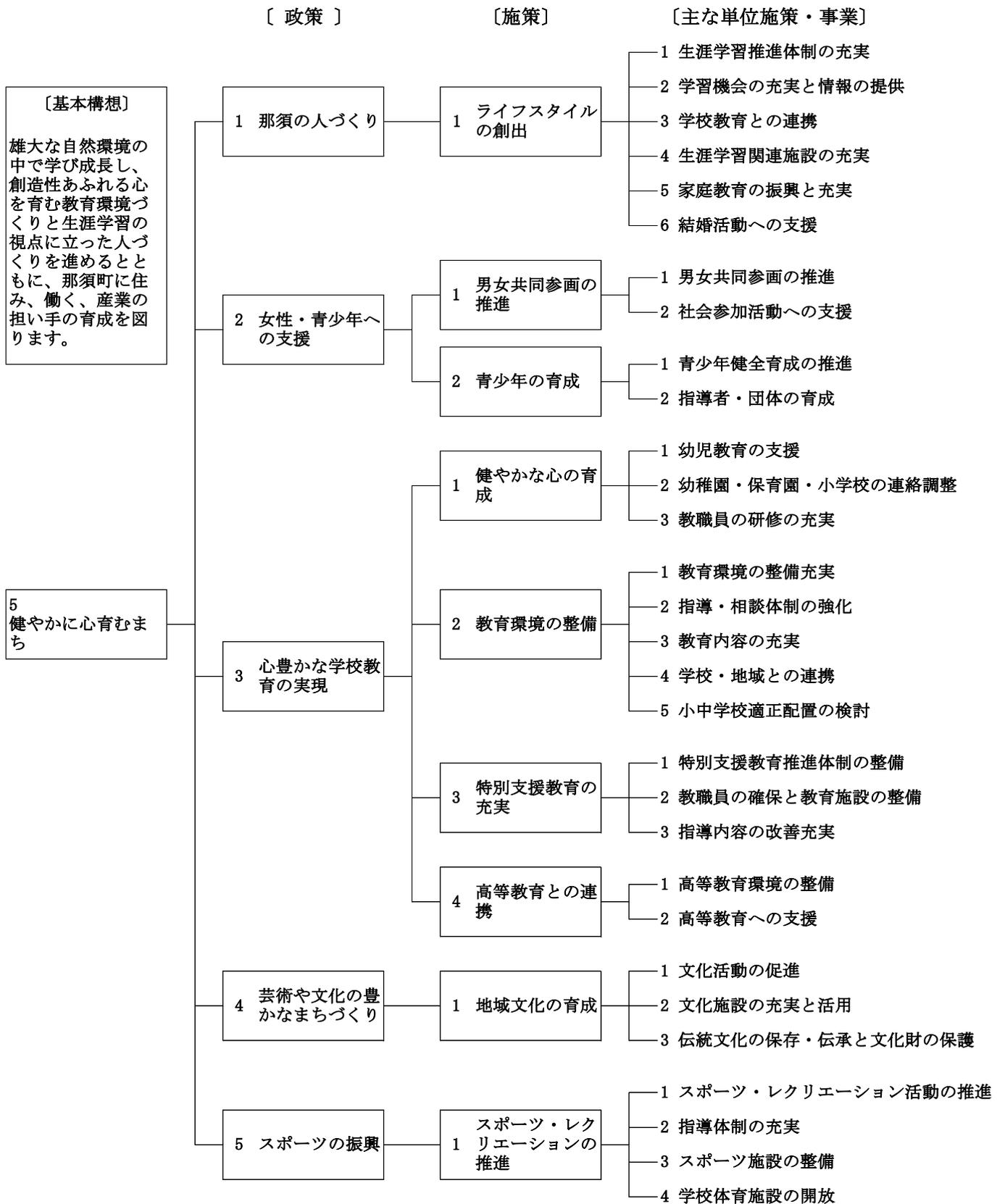
町教育委員会といたしましては、この点検・評価を次年度への改善に生かすことにより、那須の子どもたちが、より一層、自らが判断し行動できる力を身に付け、社会的に真に自立し、明日の社会をしっかりと担える人づくりを進めるとともに、「夢・感動あふれる人づくり」を教育ビジョンとして掲げ、知・徳・体・コミュニケーションの4本柱を基本に、バランスのとれた児童生徒の育成に力を入れ、各施策に取り組んでまいります。

町民の皆様には、本町の教育・文化・スポーツの充実・発展のため、今後ともご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年8月

那須町教育委員会

『ハートフル那須プラン（町振興計画・後期）』 施策の体系



平成25年度 教育委員会点検・評価対象事務事業一覧 (24年度実施事業)

No.	対 象 事 務 事 業	振興計画との関係	課 名	備 考
1	教育委員会の活動状況について			4 頁
2	4 公民館共催事業	学習機会の充実と情報の提供	生涯学習課	5 頁
3	家庭教育支援事業	家庭教育の振興と充実	生涯学習課	6 頁
4	青少年育成事業	青少年健全育成の推進	生涯学習課	7 頁
5	幼稚園振興事業	幼児教育の支援	学校教育課	8 頁
6	耐震補強等推進事業	教育環境の整備充実	学校教育課	9 頁
7	国際理解教育推進事業	教育内容の充実	学校教育課	10 頁
8	学力向上の推進	教育内容の充実	学校教育課	11 頁
9	小中学校適正配置事業	小中学校適正配置の検討	学校教育課	12 頁
10	教育相談事業	特別支援教育推進体制の整備	学校教育課	13 頁
11	複式学級・学習支援・特別支援児童生徒対策事業	特別支援教育推進体制の整備	学校教育課	14 頁
12	奨学生支援事業	高等教育への支援	学校教育課	15 頁
13	文化センター自主事業	文化活動の促進	生涯学習課	16 頁
14	那須高原ファミリーマラソン大会支援事業	スポーツ・レクリエーション活動の推進	生涯学習課	17 頁
15	那須町レクリエーション大会	スポーツ・レクリエーション活動の推進	生涯学習課	18 頁
16	総合運動公園基本構想策定	スポーツ施設の整備	生涯学習課	19 頁

I 本町における「教育委員会の点検・評価」

1 目的

教育委員会が立てた基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが点検・評価を行なうことにより、効果的な教育行政をより一層推進するとともに、町民への説明責任を果たしていくことを目的とします。

2 点検・評価の対象

本町の教育行政は、平成23年度から27年度までの5カ年計画である「ハートフル那須プラン」後期計画をもとに推進しており、教育委員会の点検・評価は、各種施策において、平成24年度の主要事業や新規事業、主な推進指標の進捗状況等を対象に実施します。

3 点検・評価結果の構成

○目標

ビジョンの施策体系ごとに、目標を掲げています。

○主な施策

目標を達成するため主要事業や新規事業について、その目的や実施状況を記載しています。

○成果及び課題

平成24年度の主な施策、推進指標の達成状況等について、成果・課題を記載しています。

○点検・評価委員からの主な意見

点検・評価委員からいただいた主な意見を記載しています。

○今後の対応・方向性

点検及び評価を踏まえ、目標の達成に向けた今後の対応方向を示しています。

4 委員会（会議）の設置

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者から意見を聴取する委員会を設置しました。

委員会の委員は、次のとおりであります。

氏 名	役 職
常 盤 隆	元那須公民館長（生涯学習）
中 島 慶 子	元大島小学校教頭（学校教育）

5 議会への報告

平成25年9月までに議会に報告します。

また、報告書は那須町のホームページにて公表します。

II 教育委員会の活動状況について

1 教育委員会議等の運営及び開催状況等

教育委員会は、原則として年6回の定例会、また、必要に応じて臨時に開催しています。平成24年度の開催状況は、次のとおりであります。

【会議の開催状況】

- 定例会 …………… 6回
- 臨時会 …………… 0回

2 教育委員会議の内容

教育委員会は原則公開になりますが、人事に関する議案を審議する場合等では、出席委員の3分の2以上の多数をもって、非公開の会議とする場合があります。定例会及び臨時会で審議された内容別の件数は、次のとおりであります。

【付議内容及び件数】

- 教育行政の運営に関する基本方針に関すること …………… 3件
 - 人事・サービスに関すること …………… 3件
 - 規則等の制定、改廃に関すること …………… 9件
 - 学校教育に関すること …………… 1件
 - その他 …………… 0件
- △審議案件のほか、報告事案30件についても取り扱いました。

3 教育委員会議以外の活動状況

教育委員は、教育委員会議以外の活動として、施策の勉強や研修会への参加、学校訪問などを実施しています。

- 研修会等参加 …………… 7月14～15日 於：岩手県・宮城県視察研修
11月7日 於：宇都宮市 県教育委員会研修会
11月12日 於：高久中 人権教育講演会
- 学校訪問 …………… 6月11日、6月25日：4小中学校：新任校長との意見交換
- 教育連合会等関係機関会議 …………… 3回
- 各種行事 …………… 12回：小中学校卒業式、教職員の辞令交付式等、成人式
生涯学習フォーラム、中学生模擬議会ほか

4 教育委員一覧

(平成25年8月1日現在)

職名	氏名	委員任期
委員長	柄沢 敏一	平成22年10月1日～平成26年9月30日
委員長職務代理者	大森源一郎	平成24年10月1日～平成28年9月30日
委員	鈴木 尚哉	平成24年10月1日～平成28年9月30日
委員	米倉 万美	平成23年3月25日～平成27年9月30日
委員(教育長)	平久井好一	平成22年6月10日～平成25年9月30日

Ⅲ 教育に関する事務の執行の点検及び評価

第1節 那須の人づくり

1 ライフスタイルの創出

目 標

「町づくり・人づくり」の目標に向けて、町民の多様な学習ニーズに応え生涯にわたり「いつでも、どこでも、だれでも」学習でき、学んだことを地域活動に活用できるよう、学習活動の支援や指導者の育成に努めます。また、生涯学習関連施設では学習活動の成果を発揮できる機会・場の提供を行うとともに、学習活動の拠点として利用促進に努めます。

主な施策名	学習機会の充実と情報の提供
事務事業名	4 公民館共催事業
目 的	少子高齢化・情報化・健康その他多岐にわたるテーマの学習機会と情報の提供を通して人づくり・生きがいづくりを進める。
実施状況	1 『自然観察教室（前期）』回数：3回 参加者数：56人 2 『那須を学ぶ』回数：4回 参加者数：114人 3 『那須の子ども塾』回数：3回 参加者数：46人 4 『自然観察教室（後期）』回数：4回 参加者数：95人
成果及び課題	4館が連携することにより、それぞれの館が持つノウハウを活かし、 ・ 町内のすばらしい資源を活用した内容を実施することができた。また、事前の準備や当日も、複数のスタッフで対応することができた。 それぞれの地域に在住されている人的資源（案内ボランティア等）の ・ 活躍の場であるとともに、参加者にとっては、知らなかったこと教えていただけるという双方向でのメリットがあった。 課題：単独館での講座は、近隣からの参加であるので、交通の利便性 ・ についてはそれほど考慮しないが、それぞれの館での開催となると、参加者の交通手段についても考えなければならない。
点検・評価委員からの主な意見	近くにいながら知らないこともあり、こうした地域に根ざした内容の ・ 講座はメリットもある。また、複数のスタッフで対応できることや、指導者育成の成果からも、ぜひ今後も継続して欲しい。 人を集めるということは大変なことである。4公民館共催事業の他にも、近くの公民館同士の連携事業もできるのではないだろうか。 参加者の交通手段については、地域まとまって乗り合わせてくるなどで対応できないか。
今後の方針	趣味を広げたり教養を深める一つとして、地元的那須の学びを深める ・ ことによって、より自己の生活を豊かにし、生きがいづくりや仲間づくりにつなげる。 多様な学習機会と情報を提供するために、4公民館の連携を密にし、幅広い年代層、多様化する町民のニーズに応えられるよう努力する。 ・ 開催会場によっては、参加者の輸送などについても検討する。

主な施策名	家庭教育の振興と充実
事務事業名	家庭教育支援事業
目的	子育て環境の急激な変化等により、不安を抱える親を支援し、子育てについて学ぶ機会を提供する。
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親学習プログラム出前講座 1 小・中学校 9校 13回 参加者数：273人 2 保育園 2園 2回 参加者数：48人 3 全就学時健康診断 8回 154人 4 4ヶ月検診 12回 146人
成果及び課題	<p>参加者が、「親学習プログラム」を通して、他の人とのコミュニケーションを深め、さまざまな意見交換の中で、自分をふりかえり、何かに気づいた姿がたくさん見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 那須町家庭教育オピニオンリーダー「かおり会」や子育て支援ボランティア「みつばち」との連携を図り、充実した出前講座が実施できた。 <p>課題：特に、就学時健康診断の時期に依頼が集中するので、家庭教育オピニオンリーダー「かおり会」の負担が多くなってしまふ。指導者の育成や、社会教育主事有資格教員との連携も視野に入れていきたい。</p>
点検・評価委員からの主な意見	<p>かつては、家庭教育学級での親の学ぶ機会があったが、こういう親の学習の機会が、しかも、予算も無い中で実施されているのはすばらしいことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こうした親の学びの場に、来て欲しい人に来てもらいたいという願いがある。就学時健康診断時には、すべての保護者が来るので、こうした機会を利用しての実施はいいと思う。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「親学習プログラム」については、家庭教育オピニオンリーダー「かおり会」、社会教育主事有資格教員と連携を図り、全就学時健康診断時の実施の継続と全小・中学校での実施を目指す。 ・ ファシリテーターの技術を向上させるために、ステップアップ研修などへの参加。マンネリ化防止のため、「親学習プログラム」のプログラム開発に努める。

目 標

青少年を取り巻く社会環境は、少子化、情報化、国際化、消費社会化が進行し、更に学校教育制度の変化、就労形態の多様化や職業意識に変化が生じていることから、青少年の健全育成を進めるため、家庭、学校、職場、地域が一体となった取り組みを推進するとともに、将来の町の担い手となる青少年の指導者を養成します。

主な施策名	青少年健全育成の推進
事務事業名	青少年育成事業
目 的	青少年が、健全な環境と地域での見守りにより、健全に生活を送ることができる。
実施状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 那須町青少年育成協議会の開催（年1回 参加数14人） 2 研修会2回 3 立入調査2回 4 夜間巡回2回（各活動への参加合計：25名）
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未成年者の健全な環境のため、コンビニエンスストアにおける有害図書の陳列状況を確認し、改善が必要な店においては改善依頼をした。 ・ 有害図書等自販機立入調査（2カ所）の実施により、平成24年度中に1カ所撤去となった。 ・ 課題：夜間巡回については、8月と12月実施していたが、12月については、ほぼ巡回していた場所で人影が見られず、実施についても検討していく。
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立入調査や夜間巡回などの活動は、地道な活動ではあるが、青少年の非行防止の抑止力となっている。ぜひ、今後も継続して活動して欲しい。 ・ 青少年リーダー（中学生・高校生）の育成も必要である。リーダー養成について、町青少年育成協議会でも検討して欲しい。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も、町青少年育成地区推進員や青少年指導員、警察などと連携を密にし、立入調査や夜間巡回を継続する。 ・ 青少年育成団体やPTA、公民館などと交流・連携を強化しながら、青少年リーダーの育成と活躍の場の提供に努める。

第3節

心豊かな学校教育の実現

1

健やかな心の育成

目 標

少子化における子育てが、より充実した教育環境の中で行えるよう支援するとともに、幼児がのびのびと健やかに成長できるような、幼児教育の整備を推進します。

主な施策名	幼児教育の支援
事務事業名	幼稚園振興事業
目 的	幼児教育の環境を整え、私立幼稚園との相互連携を図る。また、保護者の負担する保育料の一部を助成し、保護者の負担軽減を図る。
実施状況	1 幼稚園就園奨励費事業（171人 16,154,600円） 補助基準により定められた範囲内で100%補助することができ、安心して子供を生み育てることが出来る子育て環境の支援事業として実施した。 2 私立幼稚園特別支援サポート事業（新規：みふじ幼稚園1人） 心身に障がいをもつ幼児を就園させ、特別な教育のための教職員の配置に対し補助した。
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none">事業内容については、町広報や幼稚園ハンドブック等で広く周知できた。また、国の基準に該当しない家庭には、町独自の助成を行えた。障がい児に対する特別支援については、年度途中で幼稚園連絡協議会から要望があり、教育委員会内で検討した結果、必要な施策であると判断し、早急に補助要綱を設置し当該年度から対応することができた。
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none">夫婦で働く実態は多い。少しでも保護者への負担軽減を図るため、今後もぜひ継続すべき事業である。少子化が進行している。いろいろな制度で、子育て環境の改善を進める必要がある。子どもを持つ多くの家庭に、この補助事業が伝わるよう、今後も広く周知していくべきである。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none">国の制度による補助はもちろんであるが、所得により国庫補助対象外の家庭もあるので、それらの家庭には今後も町独自の補助を継続する。他市町の子育て支援策などもよく調査し、那須町における子育て環境の改善を図る。平成24年度から新設した、私立幼稚園特別支援サポート事業も含め、子育て支援の周知を図る。

目 標

人間尊重の教育を基礎に、次代を担う人材として心身ともに健やかで実践力のある児童生徒の育成を目指す中で、児童生徒の指導体制、教育内容の充実に努めます。

また、児童生徒が集団生活を通し切磋琢磨しながら自主性、社会性を培うため、一定規模の集団を確保する学校適正配置を推進します。

なお、校舎等の耐震化を進め、安全・安心な教育環境を整えます。

主な施策名	教育環境の整備充実
事務事業名	耐震補強等推進事業
目 的	児童生徒にとって、より良い教育環境を構築するため、小中学校の耐震補強工事を進め、安全・安心な学校づくりに努める。
実施状況	<p>Is値0.7未満の校舎・体育館等の施設の耐震化を実施している。 小学校13校29棟、中学校4校15棟</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 H22 小学校21棟完了、中学校 9棟完了、耐震化率68.2% 2 H23 小学校24棟完了、中学校 9棟完了、耐震化率75.0% 3 H24 小学校24棟完了、中学校11棟完了、耐震化率79.5%
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、町の適正配置計画を進めているが、今後閉校になる学校校舎等の耐震化について、跡地利用や財政問題も含め課題が残っている。 ・ 校舎及び体育館等の耐震化については、計画的に進めているところであるが、今後は体育館等の広いスペースを有する施設の天井、照明器具及びバスケットゴール等の落下防止策を講じなければならない。
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正配置計画により、閉校する学校の問題もあると思うが、やらなければならない部分は良く精査し進める事業である。 ・ 財政の無駄が出ないように、よく検討して計画的に進めてほしい。 ・ 耐震性の問題が無く、閉校になる学校施設については、地域活性化の問題もあるので、地域の拠点施設として利活用についても同時に検討していくべきである。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震性が不足している施設については、今後も計画的に耐震補強工事を進める。 ・ 非構造部材（体育館天井、照明器具及びバスケットゴール等）の点検について、今後は調査を進め落下防止策を講じる。

主な施策名	教育内容の充実
事務事業名	国際理解教育推進事業
目的	小学校に英語指導助手、中学校にALTを配置し、児童・生徒が、生の発音に触れながら、英語語学能力の向上を図る。また、中学生の海外派遣を通し、英語圏の青少年との交流及びホームステイの体験を行い、国際理解と町の将来を担う人材育成を推進する。
実施状況	<ol style="list-style-type: none"> 英語指導助手等配置 英語指導助手3名、ALT2名により外国語(英語)能力及び国際理解教育を推進するための授業を実施している。 (小学校 延べ561日 中学校 延べ389日) 那須町中学生海外派遣事業 オーストラリア ケアンズ市 (H24. 11. 17～H24, 11. 24) 中学生16名 事前研修7回、事後研修4回 (うち1回：小学校において活動報告を実施)
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の改訂に伴い、英語授業の増に対応するため、英語指導助手を1名増員した。今後は、優秀なALTの継続的な確保が課題である。 昨年度は、事前研修及び事後研修を以前より4回増やし、より派遣事業を充実させることができた。また、初めて小学校での発表を行い、派遣団員たちは、より自信を持つことができた。
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の英語能力向上のため、今後とも指導助手・ALTの適正な人数を確保してほしい。 国際理解力をもっと高めてほしい。心の学び、心を育てる教育が将来につながる。また、自国文化についても同時に理解させることも大切である。 海外派遣については、ホームステイが中心で、互いの交流ができ良い事業である。しかし、自己負担の問題もあると思うので、これについては検討の必要もある。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> 指導助手・ALTの人材確保に努め、英語教育において、指導助手・ALTと連携協議し学力向上を図る。 海外派遣事業やモンゴルホームステイ事業等への参加を促し国際理解力を高める。また、自国文化については、郷土学習の学びを推進する。 海外派遣事業については、リーダー作りのためにも事前事後研修を充実させる。また、体験したものを広く他の生徒に伝えられる工夫をする。

主な施策名	教育内容の充実
事務事業名	学力向上の推進
目的	那須町小中学生の学力向上を図るために、学習の基礎、基本を身につけ、夢に向かって生き生きと生活できる子どもの育成を目指す。
実施状況	那須町学力向上推進委員会の開催 1 開催数：6回 2 委員数：男性7名、女性5名 3 リーフレットの作成
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年度の結果からは、中学校で数学A・Bが全国を上回り、国語A・Bも全国と同程度となり一定の成果がうかがえる。 ・ 小学校においても、国語A・算数Aで、全国からのマイナスが概ね1～2ポイント台となり、徐々に向上しているが、B問題（活用）に関しては、課題がみられる。 ・ 平成19年度の調査からは、自尊感情や自己肯定感の低さが課題として挙げられたが、学校でのキャリア教育の充実や家庭でのコミュニケーション推進などの取組・啓発の結果、小・中ともにそれらの意識が向上してきている。
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上推進委員会という組織があるのは非常に良いことなので、これを活用し、夢を持てる子供を育ててほしい。 ・ 全国学力・学習状況調査は、学校内だけでなく、町全体での評価がわかるので良い。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上推進委員会の活動を生かし、学校・家庭・地域が一体となったキャリア教育を推進し、将来に夢や希望を持てる子供の育成に努める。 ・ 全国学力・学習状況調査の結果を活用し、伸ばすべきポイントの学習指導に力を入れ、学力向上を推進する。

主な施策名	小中学校適正配置計画の検討
事務事業名	小中学校適正配置事業
目的	子どもたちにとってより良い教育環境を構築するため、那須町学校適正配置等計画を推進する。
実施状況	<p>小中学校区ごとに適正配置計画の住民説明会等を開催した。更に合意形成が図られた学校区においては適正配置準備委員会が組織された。</p> <p>1 適正配置計画住民説明会 16会場 776名 2 地域、保護者との懇談会等 12回 255名 3 適正配置準備委員会 11回</p>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校区での適正配置住民説明会が計画どおり実施できた。また、地域、保護者を対象とした懇談会等も実施できた。 合意形成が図られた学校区から適正配置準備委員会が組織され、新しい学校づくりのための協議・検討が進められた。 地域、保護者の理解が得られていない学校区があり、引き続き十分な説明が必要である。
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 歴史ある学校を無くすことへの住民理解を得ることは難しいと思うが、将来の児童生徒数の推移からみても、子どもたちの教育環境を整えるため計画を進めてほしい。 理解が得られていない地域においては、引き続き努力が必要かと思うが、説明会等を開催しても参加者が少ないケースが見受けられる。 今後は学校跡地の利活用についても地域との協議が必要である。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> 合意形成に至っていない地域については、十分な理解が得られるよう引き続き話し合いを進める。 学校跡地の利活用方法についても協議を進め、それらを含めた総合的な説明会を開催する。 平成26年4月に統合となる学校については、開校の準備を進めるため、財政協議と予算確保に努める。

目 標

特別支援の必要のある児童生徒が、将来、社会人として自立できるよう、学校内で支援体制の充実を図るとともに、施設及び教材備品など教育環境の改善を図ります。

主な施策名	特別支援教育推進体制の整備
事務事業名	教育相談事業
目 的	学校に通うことができない児童生徒を対象に、保護者の理解を得ながら適正な就学指導を図り、学校への復帰支援を行なう。また教育相談の必要な保護者・教員への支援を行う。
実施状況	<p>学校に通うことの出来ない児童生徒に対し、原籍校への復帰を図っている。また教育相談を受けた保護者・教員の不安解消に努めている。</p> <p>1 平成24年度の相談の状況 ①電話相談773件 ②家庭訪問51件 ③来室相談592件 ④学校訪問71件</p> <p>2 通室人数 小学生0人 中学生9人 3 復帰人数 小学生0名 中学生2名</p>
成果及び課題	<p>不登校及び学校不適應傾向にある児童生徒の自立を促し、スクールカウンセラー及び心の教室相談員を活用し、学校生活への適応を図るための指導援助を行った。しかし、不登校の長引く児童生徒への対応が課題である。</p> <p>・ 医療機関との連携等、学校とのつながりをより深く持つ必要がでてきている。</p>
点検・評価委員からの主な意見	<p>・ 問題を抱えている児童生徒が増加傾向にあるので、これまで以上の支援を継続してほしい。</p> <p>・ 児童生徒のみではなく、保護者に対する相談・支援にも力を入れ、原籍校復帰に向けて努力してほしい。</p>
今後の方針	<p>・ 不登校及び学校不適應傾向にある児童生徒の早期発見のため、学校、保護者及び医療機関との連携を図り、原籍校復帰に向けて努力する。</p> <p>・ スクールカウンセラーや心の教室相談員との連携を密にして、保護者に対する支援の充実を図る。</p>

主な施策名	特別支援教育推進体制の整備
事務事業名	複式学級・学習支援・特別支援児童生徒対策事業
目的	<p>複式学級児童が、指導助手の配置により、国語・算数等の授業を単式学級と同じように受けられる。</p> <p>特別支援学級の開設により、児童・生徒が個々に合った適切な指導を受けられる。</p> <p>特別支援指導助手の配置により、各授業において専門的な指導を受けられる。</p>
実施状況	<p>複式学級の児童や特別支援が必要な児童生徒に対する支援を行う指導助手を配置している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 複式対象学級 9学級 2 複式解消指導助手 6名 3 特別支援指導助手 33名
成果及び課題	<p>支援を必要とする児童生徒に対し、特別支援教育コーディネーターと連携し、巡回相談などを行った。今後は更に、困難な事例に対する対応や、保護者、関係機関との連携が求められる。</p>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援を必要とする児童生徒が増えているので、保護者・関係機関と連携し、学校組織全体で支援に取り組んでほしい。 ・ 今後も指導助手の適正な配置と、児童生徒個々の状況に応じた支援を継続してほしい。 ・ 小中学校の適正配置と整合性を図りながら進めてほしい。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校・保護者・医療機関との更なる連携を図り、児童生徒個々の状況に応じた支援に努める。 ・ 特別支援教育コーディネーターを有効活用し、本事業の充実を図る。 ・ 指導助手の配置等については、小中学校の適正配置と整合性を図りながら進める。

目 標

時代の要請に即した優秀な人材を育成、確保するため、高等教育環境の整備充実を関係機関に働きかけるとともに、町の奨学資金制度等により意欲ある人材の就学を支援します。

主な施策名	高等教育への支援
事務事業名	奨学生支援事業
目 的	高い学習意欲をもちながら、経済的理由により就学困難な者に、奨学資金貸付制度を活用し、町の将来を担う優秀な人材を育成する支援を行う。
実施状況	貸付額 大学生30,000円/月、高校生月額15,000円/月 1 H22貸付者 29名（うち新規貸付者7名）年間貸付額6,570,000円 2 H23貸付者 21名（うち新規貸付者3名）年間貸付額6,390,000円 3 H24貸付者 18名（うち新規貸付者3名）年間貸付額5,535,000円 H24内訳 大学生13名、高校生5名（うち新規貸付 大学生3名）
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 奨学資金選考委員会において審議した結果、希望者全員に奨学金を貸付けすることができた。 返還金の一部滞納者があり、連絡が取れない者等、徴収方法に課題が残っている。 昨年度の点検評価の際にご意見のあった、貸付資格範囲（専門学校等）の拡大について、年度内に奨学資金条例の改正手続きが行えた。
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 奨学資金貸付けの範囲を、専門学校等にも広げたのは大変良いことである。 滞納者の問題もあるようだが、返済しやすい方法も検討すべきである。 当然ながら借りたものは返さなければならないが、町のため、また、教育関係に就職すれば何か特権が与えられるというものは検討できないか。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度から新規で始まる専門学校等進学への貸付けについて、広く周知する。 滞納者については、連帯保証人と十分協議し、返済方法について話し合いを進める。

第4節

芸術や文化の豊かなまちづくり

1

地域文化の育成

目 標

町民の文化活動を促進するため、世代間の連携と活動の展開を図り、文化施設の利用促進と指導者の育成等、町を担う人づくりとその支援のための環境づくりを推進します。伝統文化の保存・伝承に努めるとともに文化財の保護と活用に努めます。

主な施策名	文化活動の促進
事務事業名	文化センター自主事業
目 的	子どもから大人まで幅広い年齢層に応じた音楽、演劇など優れた芸術文化に触れる。
実施状況	<p>1 自主事業 ①ワークショップ「那須薪能」の開催（715枚） ②AIコンサート（966枚） ③ひろみち&たにぞうコンサート（216枚）</p> <p>2 共催事業 ①移動音楽鑑賞教室（内容：日本のしらべ、参加者：町内全中学生748人）</p>
成果及び課題	<p>雨のためホールでの開催となったが、ワークショップで能の基本的なことを理解し、本物に触れることによって、日本の伝統を身近に感じることができた。</p> <p>AIのコンサートは、CM等でAIの曲が使用されたり、テレビへの出演が増えてきたりしたことから、人気は急上昇のいいタイミングでのコンサートの開催となった。</p> <p>課題：子どもから大人まで大勢の方に来場していただけるような、企画・運営・広報などを工夫することが必要である。</p>
点検・評価委員からの主な意見	<p>「那須薪能」は町が目玉事業の一つになりつつある。今後もこうした町民が本物にふれる機会を提供して欲しい。</p> <p>課題については、関係機関とのネットワークの再構築をし、大勢の方々に来場していただけるよう、事業内容の検討・工夫や、情報の提供を行って欲しい。課題となっていることが今後の方針でもある。</p>
今後の方針	<p>町民のニーズに応えられるよう情報収集や関係機関との連携に努め、新規事業内容を取り入れるなどし、広く町民に興味・関心をもってもらえる事業を展開する。</p> <p>優れた文化芸術にふれる機会を提供し、幅広い年齢層に応じた文化振興を図るとともに、事業内容やPRの工夫に努める。</p>

目 標

町民が健康で活気にあふれ、生きがいのある生活が送れるよう生涯スポーツの推進のため、地域住民のニーズに応じたスポーツ・レクリエーションの普及と指導體制の充実や施設の整備に努めます。

また、生涯スポーツの核となる総合運動公園を整備することにより、町内外の子どもから高齢者まで生涯を通してスポーツに親しみ、楽しむことが出来る環境を整えます。

主な施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進
事務事業名	那須高原ファミリーマラソン大会支援事業
目 的	町内外からのランナーが健康増進や親子のふれあい、競技力向上を図る。
実施状況	りんどう湖ファミリー牧場を発着として、2k・3k・5k・10k・ウォーキング等の種目を実施しました。 1 期日：11月25日（日） 2 参加者：1,909名（町内924名、町外985名）
成果及び課題	年々参加者も増え続け、特色の有る大会となり好評を得ている。 参加者の増加に伴い、観光誘客や競技力向上につながっており、更なる観光誘客や競技力向上に向けたハーフマラソンを25年度より行う予定である。 なお、経費の面での安定した財源の確保や、運営上でスタッフが不足するため人材確保などの課題を克服していく。
点検・評価委員からの主な意見	財政も人材集めも大変であると思われるが、りんどう湖で行われるマラソンは参加者も増えており、町の目玉として是非進めていってほしい事業である。
今後の方針	財政面については、補助金の確保と更なる協賛を募り、経費面を抑えながら那須町らしい大会を目指していく。また、人材については、平成25年度は、各団体に協力要請を行い、次年度以降については、ボランティアの登録制を検討し、参加者やスタッフの安全を確保していく。

主な施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進
事務事業名	那須町レクリエーション大会
目的	子どもから高齢者までスポーツによるまちづくり実現に向け、多種多様な事業の実施。
実施状況	<p>体育の日に、町のレクリエーション大会として開催し、親子ソフトバレーボール大会、成人によるさいかつぼーる大会、子供から高齢者までを対象としたスナッグゴルフ大会の3種目を実施しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 親と子のソフトバレーボール大会 (32チーム285名) 2 さいかつぼーる大会 (6チーム41名) 3 スナッグゴルフ大会 (35名)
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親と子のソフトバレーボール(285名参加)への大規模校からの参加児童が少ないので、多くの児童・保護者に参加を促す必要がある。 ・ さいかつぼーるの参加チーム数が、平成24年度で6チーム(41名)と少ないので、成人への参加を促す必要がある。 ・ 平成24年度より余笹川ふれあい公園で開催しているスナッグゴルフ(35名)を今後さらに普及し、ゴルフ人口の底辺拡大を図る。
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーション大会の種目である、さいかつぼーるやスナッグゴルフは公民館事業等でも徐々に実施してきており望ましい種目であると思う。競技普及のためにも公民館事業で取り入れるなどして、町のレクリエーション大会として多くの方が参加されるよう取り組んでほしい。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那須町スポーツ推進委員等と連携し、さいかつぼーるやスナッグゴルフの更なる普及と、町レクリエーション大会に沢山の方が気軽に参加できるよう開催日の検討やPR方法を工夫する。

主な施策名	スポーツ施設の整備
事務事業名	総合運動公園基本構想策定
目的	生涯スポーツの核となり、スポーツを通して町の振興にもつながる総合運動公園の基本構想を策定する。
実施状況	那須町総合運動公園基本構想策定委員会の設置 委員数14名 1 委員会の開催 2回 平成25年度も引き続き委員会を開催し基本構想を策定する。
成果及び課題	総合運動公園は、スポーツ振興だけでなく本町観光振興の核となる施設を目指す必要があり基本構想は建設計画の根幹となるものであるから、十分な検討協議を尽くして策定することが必要である。
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合運動公園は他市町村では整備されているところが多く、那須町でもスポーツ振興のため整備されることを希望する。 ・ 建設にあたっては、長期展望と計画を持って進めてほしい。
今後の方針	総合運動公園基本構想策定委員会において十分な協議を行い、基本計画及び施設整備にあたっては、長期展望をもって町民のコンセンサスを図りながら進めていく。